

プロフィール



ほしの とみひろ
星野 富弘

- 1946 年 群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。
- 1970 年 群馬大学教育学部保健体育科卒業。
中学校教諭になるが、クラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う。
- 1972 年 病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める。
- 1979 年 前橋で最初の作品展を開く。退院。
- 1981 年 結婚。雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイの連載を始める。
この頃から全国各地で「花の詩画展」を開催。
- 1991 年 東村に村立富弘美術館開館（現みどり市立「富弘美術館」）。
- 1994 年 休止していた「花の詩画展」を、熊本県立美術館での開催を境に再開。負傷後初めて飛行機に乗って熊本を訪問。
以後ニューヨーク、ホノルル、ロサンゼルス、ワルシャワなど海外でも開催。
- 2006 年 芦北町立星野富弘美術館開館。
群馬県名誉県民の称号を贈られる。
- 2011 年 群馬大学特別栄誉賞（第一回）受賞。
- 2021 年 富弘美術館開館 30 周年。
芦北町立星野富弘美術館開館 15 周年。

詩画やエッセイは教科書にも掲載され、詩は作曲され多くの人に歌われている。現在も詩画やエッセイの創作を続けながら、全国で「花の詩画展」を開いている。

＜主な著書＞

「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「山の向こうの美術館」「種蒔きもせず」「いのちより大切なもの」「詩画とともに生きる」「あの時から空が変わった」「足で歩いた頃のこと」等

芦北町立星野富弘美術館

休止されていた「星野富弘 花の詩画展」が、1994 年の熊本県立美術館での開催を境に再開されます。それが契機となり、その 1 年後に「星野富弘詩画がある芦北ふるさとギャラリー」が芦北町に開設。以後、交流が続くなかで富弘美術館（群馬県みどり市）の唯一の姉妹館として、2006 年に「芦北町立星野富弘美術館」が誕生しました。当美術館は、星野富弘の詩画作品を常設展示しています。皆様には、星野の描く「いのちの尊さ・いのちの輝き」を感じていただければ幸いです。

開館時間・観覧料

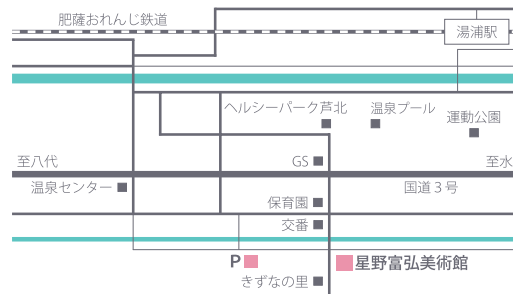
開館時間	午前 9 時～午後 5 時
休 館 日	第 2・4 月曜日（祝日の場合は翌平日） 年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日） その他燻蒸作業に伴う臨時休館有り
観 覧 料	一般 500 円（400 円） 小中学生 300 円（260 円） 幼児 無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体 ※障がい者手帳等お持ちの方は半額 ※学校の団体利用による割引有り

団体予約は
こちらから



交通アクセス

高速道路	南九州西回り自動車道 ・「芦北 I C」下車⇒星野富弘美術館 [15 分] ・「津奈木 I C」下車⇒星野富弘美術館 [15 分]
電 車	肥薩おれんじ鉄道 ・「湯浦駅」下車⇒星野富弘美術館 [徒歩 15 分] ・「佐敷駅」下車⇒星野富弘美術館 [車 10 分]
新 幹 線	J R 九州新幹線 ・「新水俣駅」下車⇒星野富弘美術館 [車 20 分] ・「新八代駅」下車⇒星野富弘美術館 [車 45 分] ※肥薩おれんじ鉄道「新水俣駅」⇒湯浦駅 [15 分] ※肥薩おれんじ鉄道「新八代駅」⇒湯浦駅 [55 分]



※バス等の駐車については、当館までお問い合わせください。

芦北町立星野富弘美術館

〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町湯浦 1439-2
TEL: 0966-86-1600 FAX: 0966-86-1600
http://www.hoshino-museum.com

（姉妹館）富弘美術館・群馬県みどり市東町草木 96 TEL:0277-95-6333 FAX:0277-95-6100



芦北町立 星野富弘美術館



展覧会スケジュール

2023 - 2024

季節の常設展／特別展

季節の常設展では、四季をテーマとする作品の数々をご覧いただけます。また、特別展では、星野富弘の様々な詩画の世界をご堪能いただけます。

▶ 6.11〔日〕

季節の常設展「春・初夏」

富弘作品には、四季折々に咲く花や草木が描かれています。本展では、「さくらんぼ」や「ニセアカシア」など、春・初夏の草花を題材にした作品を紹介します。

6.13〔火〕 ▶ 9.24〔日〕

特別展「日常と会話」



「そばを食べながら」1998年

日々の生活を営む中で、私たちは会話をしています。そのような、日常のささいな出来事から生まれる会話は富弘作品にはなくてはならないものです。

本展では、「そばを食べながら」や「結婚指輪」など、日々の会話をテーマとした作品を展示します。

季節の常設展「夏」

「河原撫子」や「ルリヤナギ」など、夏を彩る草花を題材とした作品を紹介します。

9.25〔月〕 ▶ 9.28〔木〕 **臨時休館**

収蔵庫の燻蒸のため、臨時休館となります。

9.29〔金〕 ▶ 12.10〔日〕

特別展「花の名前」

わたし達は日常の中で、さまざまな草花を目にしています。そのような草花の名前をあなたはいくつ知っているでしょうか。聞きなれない草花、知っている草花、富弘作品を通して見つめ直してみませんか？



「花の名前」1986年

季節の常設展「秋」

秋の草花を題材とした作品を紹介します。

12.12〔火〕 ▶ 2024.3.10〔日〕

特別展「こころ」

富弘作品は、わたし達の感情に寄り添いつづけてくれます。時には優しく勇気づけてくれ、時には厳しい言葉で気持ちを励まします。本展では、「こころ」や「柱時計」など感情に寄せた作品を特集展示します。



「こころ」2000年

季節の常設展「冬」

「一枝の椿」や「水仙」、「雪の道」など、冬の草花を題材とした作品を紹介します。

2024.3.12〔火〕 ▶ 6.23〔日〕

季節の常設展「春・初夏」

本展では、春・初夏の草花を題材とした作品を紹介します。

2024.3.12〔火〕 ▶ 4.21〔日〕

第17回星野富弘美術館詩画公募展入賞作品展

第17回詩画公募展において選出された全ての優秀作品を展示します。全国各地から届く、一人ひとりの体験や感性が表現された詩画作品をご覧ください。



「足がはえているだいこん」
富田 悠琉
山鹿市立めのだけ小学校2年
小学生の部



「大好きなニャーゴロ」
田中 風花
熊本市立北部中学校1年
中学生の部



「祖母の卵かけごはん」
宮部 きよら
九州ルーテル学院大学
一般の部

※すべて第16回公募展入賞作品

詩画作品募集！

第17回星野富弘美術館詩画公募展

絵と言葉をひとつの画面に収めた詩画を、広く一般に普及させるとともに、地域の芸術文化の発展向上に寄与することを目的に、詩画公募展を実施します。一人ひとりの体験や感性から生まれるオリジナルな詩画の優秀作品を顕彰します。

応募期間： **12.1〔金〕 ▶ 2024.1.31〔水〕**

応募規定： 出品者本人の体験や感性から生まれるオリジナルな詩画作品であること。

※その他詳細は、募集要項をご確認ください。

※募集要項は、チラシや美術館HP等に後日掲載します。